

平成25年度事務事業評価シート		該当事業(評価対象外事業は基本情報のみ記載)		
		一般事務	公共建設事業	評価対象外事業
事務事業名	消防団施設事業			
予算科目	9 款 1 項 3 目			
総合計画での位置付け	住環境の整備と生活安全の確保～はつらつ住みよいまちづくり～ 消防・防災・安全の確保			
所管課情報	担当課:	防災安全課	電話番号(内線):	982-0657
記入者情報	所属長:	新田 亮仙	担当責任者:	水口 盛文
事業の性格	法定事務			
実施期間	【開始年度】平成 18 年度 【開始年度】設定なし			
事業の対象	消防団施設			
根拠法令等	消防組織法、消防団の設置等に関する条例			
事業の目的	消防団詰所の整備及び維持管理			
事業の内容	消防団詰所新築、改修、維持管理			
改善策の 具体的 取り組み (当初)	平成25年2月13日に伊予市消防施設等整備計画が策定され、消防詰所及び消防設備の耐用年数が定められ計画的な整備が進められている。			
改善策の 具体的 取り組み	分団本団詰所80㎡、部詰所50㎡と建築面積を決め、基本ベースを作成し立地条件に適した詰所を計画的に建築する。			

事業費及び財源内訳					
項 目		24年度決算	25年度予算	9月末の執行状況	25年度決算
事業費	直接事業費	3,561	32,045	719	26,752
	人件費	7,599	7,728	7,728	7,728
	合計	0	39,773	8,447	34,480
人件費 内訳	人工数	0.95	0.95	0.95	0.95
	人件費単価	7,999	8,135	8,135	8,135
	補助事業人件費	0	0	0	0
	人件費	7,599	7,728	7,728	7,728
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0
	一般財源	11,160	39,773	8,447	34,480

事業活動の実績(活動指標)					
項目	単位	24年度実績	25年度予定	9月末の実績	25年度実績
消防団詰所の修理見込み	箇所	15	41	2	9
光熱水費	箇所	39	39	39	39
消防団詰所新築	箇所	1	1	1	1

向こう5年間の直接事業費の推移						
年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	5年間の実績
		41,600	41,600	33,000	33,000	

成果指標				
成果指標	消防詰所の耐震化を伊予市消防団施設等の10箇年度整備計画に基づき整備する充足率で達成度を測定する。(実績)今年度までの累積更新数4箇所/(目標)耐震計画数10箇所			
指標設定の考え方	今後起こる南海トラフ大地震を考慮すると災害活動拠点となる消防詰所を耐震化する必要がある。			
区分年度	24年度	25年度	26年度	目標28年度
目標	100%	100%	100%	100%
実績	30%	40%	60%	100%

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	5	A
		市民ニーズへの対応	5	
		市の関与の妥当性	5	
	有効性	事業の効果	5	B
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	5	
	効率性	手段の最適性	3	B
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	5	
課題認識	現在消防詰所は、市内に41カ所ありますが、耐震構造は26カ所で63%である。平成37年度までには計画的に更新し、すべての詰所を耐震化することで災害活動拠点としての機能を果たす。			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	4	A
		市民ニーズへの対応	4	
		市の関与の妥当性	5	
	有効性	事業の効果	3	C
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	3	B
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	5	
課題認識	消防団詰め所は10箇年の整備計画に基づき順次整備してきた。平成24年度に、平成28年度までの現行計画を修正するとともに平成29年度から38年度までの時期計画を策定した。分団本部詰め所は80㎡という面積要件から設計の自由度が高いため、コスト抑制の点から仕様の統一が必要と考える。また、団員数の減少傾向や財政負担の軽減要請を背景に、消防団の再編等の問題と関連付けて詰所の集約など施設整備の方向性も今後検討する必要がある。			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	以下の点について外部評価が必要と判断し、行政評価委員会に諮る。
意見、課題	行政評価委員会の抽出事業により、外部評価に諮ることとする。

行政評価委員会の答申

外部評価 (行政評価委員会)	・詰所の新築よりもっと大切なことが事業化されてないように思う(例:防波堤対策、避難通路の確保)。優先順位の高い事柄から実施されると良いと思う。・直接事業費の使途明細について説明があるとよい。・消防団事業の財産をきちっと書いて、10年かけてどうするのかという工程表を作っていただきたい。・消防団設備事業と分ける必要はない。一体化して事業全体の評価をすべきである。・10箇年度計画の中身がよく分からない。詰所としての機能を果たすために必要なものが見えてこない、5年間で1億8千万円という経費が本当にふさわしいかどうかは分からない。精査していただきたい。
-------------------	--

経営者会議の最終判断

事業の方向性	現状のまま継続する。
意見、課題	